

第百七十七話 長蛇を逸したり！

帝国海軍の作戦・戦闘を見ていると、艦隊撃滅のみに終始し、“長蛇を逸し”たと思える事例が多々ある。(頼山陽作「川中島」の結句 流星光低、長蛇を逸す) 歯痒い限りである。その原因は、艦隊決戦原則に拘ったことにあった？



1 長蛇を逸した海軍作戦(勿論異論・擁護論は多々あるのだが・・・)

(1) 真珠湾攻撃(1946(S16)年12月8日)

日本海軍の攻撃により、米太平洋艦隊の戦艦部隊はほぼ壊滅し(沈没4隻等)たが、攻撃部隊は何故か、給油艦や重油タンク(450万缶)を攻撃することなく、帰投した。基地機能の再建や太平洋艦隊の運用に相当な支障を及ぼし得た筈だが・・・。米本土上陸迄は過望だとしても、千載一遇の機会を逸したのは残念だ。

(2) 第一次ソロモン海戦(1947(S17)年8月9日)

本海戦は日本海軍第八艦隊(三川海軍中将)の一方的な勝利であったが、残念ながら、米輸送船団に対する攻撃は行わずに、ガダルカナルへの揚陸を許してしまった。同艦隊の主任務は、輸送船団撃破の筈だったが・・・。何故だ？

(3) 南太平洋海戦(1942(S17)年10月26~27日)

米軍に占領されたガ島飛行場奪回を支援する日本海軍第二艦隊(近藤中将)、第三艦隊(南雲中将)と米空母機動部隊の海戦。日本軍の勝利で、空母二隻中の空母1隻を撃沈、空母エンタープライズは中破で、日本軍空母は健在だった。逃走するエンタープライズを結果的に取り逃がした。戦艦ではなかったのに、徹底的な追撃をしなかった？この後日本海軍は上陸部隊の支援をしたのか？日本陸軍の上陸は失敗した。

(4) レイテ沖海戦(1944(S19)年10月20~25日)

レイテ島に米軍が上陸したのを受けて、上陸地点への突入を計画していた第一遊撃部隊(栗田海軍中将)は、大輸送船団を目前にして何故か反転した。謎の反転！

2 艦隊決戦優先主義の弊害

(1) 南方からの海上輸送路の護衛

第一段南方資源地帯攻略後は、その戦略物資を日本に環送する必要がある、その為に必要な船団護衛は本来の海軍の任務である筈だったが、通商破壊など論外・・・(第百十五話 お粗末なシーレーン防衛 参照)

(2) 米艦隊を誘き出して撃滅する筈だったミッドウェー作戦

第一段作戦終了後の作戦としてのミッドウェー攻略の必要性があったのか、妥当だったのか？MI作戦は、全般作戦計画を無視しての米艦隊撃滅のみを追求する愚という他ない。結果的に、南雲機動部隊・第一航空艦隊の主力空母4隻が撃沈されるなど、海軍は惨敗を喫し、爾後日本軍は劣勢に追い込まれた。

(第三十二話 ミッドウェー惨敗 戦争指導構想の混迷 参照)

(3) 航空作戦の優位性無視

開戦劈頭のマレー沖海戦で、航空攻撃の優位性を日本が証明したにも拘らず、艦隊決戦優先から脱却できなかった。戦艦中心主義であり、空母機動部隊構想への転換が容易に出来なかった。(第十九話 大艦巨砲主義からの転換が出来なかった日本 参照)

(4) 島嶼群の不沈空母化(要塞化)の不備

占領した島嶼群を不沈空母化して来攻する米艦隊を邀撃する計画だった筈が、何故か組織化もされず、前へ前へと敵を求めて出ていったと思えるのだが・・・

(第百十六話 不沈空母は画餅に帰した 参照)

* 艦隊決戦こそ海軍の戦闘との思い込みが長蛇を逸し、作戦に悪影響を及ぼした。

(第百七十七話 了)